

## 平成13年 簡易生命表のポイント

### 1 平成13年の平均寿命は男女とも最高を更新

平成13年の平均寿命は、男が78.07年、女が84.93年で、前年を男は0.35年、女は0.33年上回った。

男女差は6.86年と、前年より0.02年縮小した。

### 男女別平均寿命とその差

	平成13年	平成12年	延び
男	78.07年	77.72年	0.35年
女	84.93年	84.60年	0.33年
男女差	6.86年	6.88年	-0.02年

### 日本人の平均寿命と延びの推移

(単位：年)

暦年	平均寿命			延び(対前年)		
	男	女	男女差	男	女	男女差
平成元	75.91	81.77	5.86	0.37	0.47	0.10
*2	75.92	81.90	5.98	0.01	0.13	0.12
3	76.11	82.11	6.00	0.19	0.21	0.02
4	76.09	82.22	6.13	-0.02	0.11	0.13
5	76.25	82.51	6.26	0.16	0.29	0.13
6	76.57	82.98	6.41	0.32	0.47	0.15
*7	76.38	82.85	6.47	-0.19	-0.13	0.06
8	77.01	83.59	6.58	0.63	0.74	0.11
9	77.19	83.82	6.63	0.18	0.23	0.05
10	77.16	84.01	6.85	-0.03	0.19	0.22
11	77.10	83.99	6.89	-0.06	-0.02	0.04
*12	77.72	84.60	6.88	0.62	0.61	-0.01
13	78.07	84.93	6.86	0.35	0.33	-0.02

注：\*印は完全生命表、その他は簡易生命表による。

## 2 寿命中位数は男81.08年、女87.72年

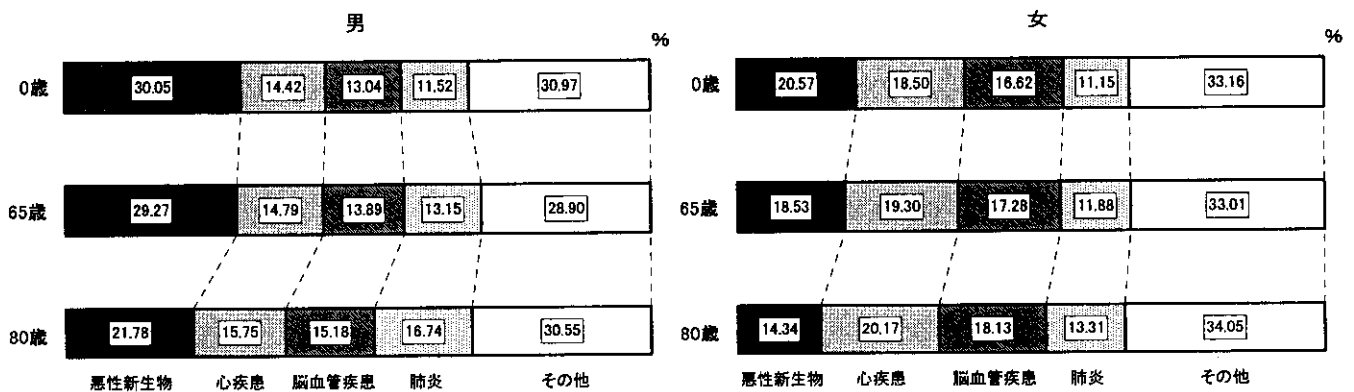
平成13年簡易生命表によると、生まれた者のうち半数が生存すると期待される年数（寿命中位数）は男では81.08年、女では87.72年となっている。また、80歳まで生存すると予想される者の割合は男では53.5%、女では75.3%となっている。

## 3 3大死因による死亡確率は、男女とも5割以上

平成13年における死因別死亡確率（将来どの死因で死亡するかを示す割合）は、0歳の男女とも悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっている。

また、0歳における3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡確率は、男女とも5割以上（男57.5%、女55.7%）となっている。

死因別死亡確率（主要死因）

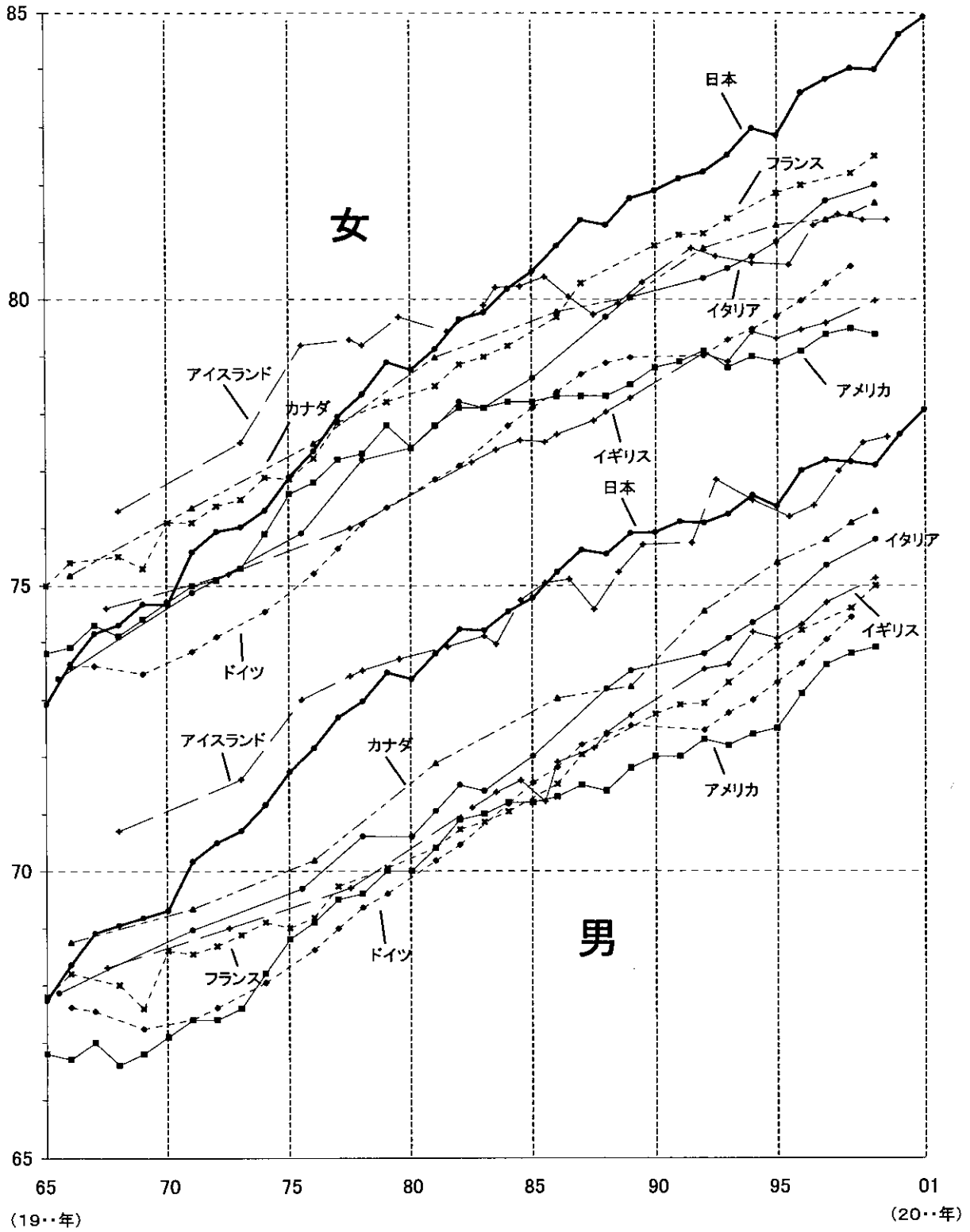


## 4 3大死因克服時の平均寿命の伸びは男8.82年、女7.95年

特定の死因が克服されたと仮定した場合の平均寿命の伸びは、0歳では男女とも悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の順になっている。3大死因が克服されれば、平均寿命は男8.82年、女7.95年延びて、男86.89年、女92.88年となる。

### 諸外国との比較

平均寿命(年)



資料 : U. N. Demographic Yearbook 等  
 注 : 1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。